

にほんご

蔡全胜 主编

敬语通



大连出版社  
DALIAN PUBLISHING HOUSE

JING YU TONG  
敬 语 通

主 编 蔡全胜  
副主编 李书云 赵度一

大连出版社

© 蔡全胜 2006

图书在版编目(CIP)数据

敬语通 / 蔡全胜主编. —大连:大连出版社, 2006. 5

ISBN 7-80684-401-5

I. 敬... II. 蔡... III. 日语—敬语 IV. H364

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2006)第 051648 号

责任编辑:孙德彦  
封面设计:曹 艺  
插图绘画:温兆博  
责任校对:王恒田

---

出版发行者:大连出版社

地址:大连市西岗区长白街10号

邮编:116011

电话:(0411)83621049/83621147

传真:(0411)83610391

网址:<http://www.dl-press.com>

电子信箱:[cbs@dl.gov.cn](mailto:cbs@dl.gov.cn)

印刷者:沈阳全成广告印务有限公司

经销者:各地新华书店

---

幅面尺寸:140mm×203mm

印 张:7.625

字 数:160千字

印 数:1—4000册

---

出版时间:2006年6月第1版

印刷时间:2006年6月第1次印刷

定 价:15.00元

---

如有印装质量问题,请与我社营销部联系  
购书热线电话:(0411)83621049/83621147  
版权所有·侵权必究

# 前 言

对于学日语的中国人来说日语的敬语比较复杂,不容易掌握。其实就是日本人也为“敬语”感到头疼。2005年7月12日日本文化厅发表的2004年度《有关国语的社会调查》结果表明,有80%的日本人认为日本人使用的敬语有错误倾向,有近40%的日本人对自己使用的敬语没有信心。该调查结果还表明日本20岁左右的年轻人对能否正确使用敬语最没信心。更令人吃惊的是有些日本人虽然也想正确使用敬语,却不知什么是正确的敬语。

基于上述倾向,结合我国日语学习者的实际情况,特编写了本书。其目的就是为广大日语学习者提供一个了解、学习日语敬语的平台,通过这个平台更深入地体会日本文化的特色,从而促进日语学习。

虽然在日本也有不少介绍敬语的书籍,但都是以日本人为对象的。本书立足于中国学习者,集中了日本最新的信息,汲取了各家的优点,尽可能准确、通俗、简明、高效地把日语的敬语展现在读者的面前。期盼着本书能够为广大日语学习者正确使用日语敬语作出点贡献。

在编写此书时得到日本专家的指导与帮助,参考了《ビジネスマナー・知識事例事典》(主婦と生活社),《手紙・はがき・メール実例事典》(主婦と生活社),《敬語速攻マスター》(鈴木昭夫著),《人前で話す技術・聞かせるコツ》(中野博著),《一人前の受け答えと話し方》(村岡雅夫著)等书籍。

在编写过程中还得到出版社的大力支持和帮助。在此一并表示感谢。

编 者

2005年10月

# 目 录

第1章 基本編 .....	1
第1節 敬語の役割 .....	1
第2節 身につけたいTPO .....	3
第3節 呼称と敬称 .....	5
第4節 敬語の種類 .....	8
第5節 人間関係と敬語 .....	17
第2章 会話編 .....	22
第1節 一日の始まり .....	22
第2節 エレベーターの前で .....	26
第3節 朝のひと時 .....	30
第4節 報告や相談 .....	36
第5節 電話の応対 .....	44
第6節 お客様の対応 .....	80
第7節 クライアントを訪問 .....	106
第8節 一日の終わり .....	126
第9節 もしものとき .....	132
第3章 文章編 .....	144
第1節 手紙の書き方 .....	145
第2節 メールの書き方 .....	159
第3節 携帯メールの書き方 .....	162
第4章 実践編 .....	165
実践1 電話の応答 .....	165
実践2 日常生活の敬語表現 .....	173
実践3 手紙の敬語表現 .....	192
[解答]と[解説] .....	203

# 第1章 基本編

## 第1節 敬語の役割

敬語は潤滑油だと日本人が言います。見事に日本語の敬語の役割を譬えた言い方です。日本社会に生きる日本人も、毎日、朝起きてから夜寝るまでの間に、家庭・学校・職場などでさまざまな人とのコミュニケーションを行っています。現代は、携帯電話やパソコンなどの情報通信機器の目ざましい発達により、メールなどで、互いの意志疎通を図ることができるようになりましたが、それらは実際に面と向かって話をすることの代りにすぎません。顔を合わせてのコミュニケーションによって、さまざまな信頼関係が蓄積されていくものだと言えましょう。

特に日本の社会では、年齢差、性別はもちろん、職場での上下関係、学校での立場上の差などを含んださまざまな人間関係があり、立場や場面に応じた言葉遣いが求められます。そのために必要なものが敬語です。どのような立場の人に対しても同じ言葉遣いをしている日本人は、ほとんどいないはずですが、このように自分と相手との立場上の相違をうまく補う潤滑油となるのが、敬語なのです。私たち中国人日本語学習者は、日本人

とまったく同じように敬語を使いこなすことが難しいでしょうが、日本社会を理解するためにも、日本語の敬語の実態を知り、その使い方を覚えてみる必要があります。

それでは、敬語とは何かをまず考えてみましょう。

2000年12月12日、第22期国語審議会しんぎかいは『現代社会における敬意表現』という答申とうしんをまとめました。

その冒頭部分で

敬意表現とは、コミュニケーションにおいて、相互尊重そうごそんちようの精神に基づき、相手や場面に配慮はいりよして使い分けしている言葉遣いを意味する。それらは話し手が相手の人格や立場を尊重し、敬語や敬語以外の様々な表現からその時々しんかくにふさわしいものを自己表現として選択するものである。

と概念規定がいねんきていをしています。これには、1952年5月、国語審議会が建議けんぎした『これからの敬語』の基本方針である次の一文、

これまでの敬語は、主として上下関係に立って発達してきたが、これからの敬語は、各人の基本的人格を尊重する相互尊敬の上に立たなければならない。

に示された精神しんしゅうが踏襲とうじゆされていることはいうまでもありません。適切てきせつで正しい敬語の用法を身に付けることはもちろん大切なことですが、それぞれ立場を異にする者同士ものどうしが相互に尊重し合う心を持つことが、なによりも重要です。

また、敬語は立場の差を埋める役割を果たします。一段下いちだんさがって自分を尊重する姿勢しせいをとられると、自分にとって多少きつ

いことも、やわらかく受け止められるでしょう。逆にこちらが言いにくいことも、敬語表現を自在に駆使することで言いやすくなるということがあります。

以上でわかるように日本語の敬語は「相手の尊重」を理念とするのです。

## 第2節 身につけたいTPO

TPOとはもともと「時(time)、所(place)、場合(occasion)に応じた服装などの使い分け」の意味ですが、ここでは、時、所、場合に応じた敬語の使い分けの意味として考えるのです。それは一口に敬語と言っても、実に豊富な表現があり、それらをどんな人に、どんな場面で、どのように使うかが問題となるからです。敬語は軽すぎて失礼になってもいけませんし、過剰な表現にしすぎてかえって無礼と受けとられてもいけません。軽い敬語から重い敬語、単なる付加的な敬語表現から転換型の本格的な敬語動詞まで、相手や場面に応じて使い分ける勘を養いましょう。

敬語は次のような人、場面に必要となります。

- ①年長の人……父親・母親・先輩など
- ②地位・立場の高い人……上司・恩師など
- ③社会的ステイタスのある人……医師・学者・作家など
- ④人間関係が築けていない人……初対面の人・たまにしか会わない人など
- ⑤公式の場での会話……会議・講義・講演・冠婚葬祭など



敬語が必要となるシーンは、上下関係だけでなく、公私や親しきにもよることがわかります。

日本では商取引、ビジネスの場での敬語表現ほど多彩なものはありません。取引先との電話の応対から始まって訪問先での言葉遣い、社内用の敬語と顧客への敬語の巧みな使い分けを経て、契約の場面に至るまで、敬語の誤用は、会社の思わぬ信用失墜ともなりかねないと言われます。

また、日本の学校では学生は普段あまり敬語のことを気にしませんが、就職や進学の時には慌てて正しい敬語の使い方を覚えようと特訓を受ける人が多いと言われます。いつの時代も、企業としては少しでも優秀な人材を迎え入れたいと考えています。就職活動における面接時の言葉遣いや服装・態度（これらも敬意表現に含まれる）は厳しくチェックされます。また進学の際には、大学・短大への面接試験において、自己紹介の最初の一声から始まって、面接官の質問に対して、ものおじせずにはっきりと丁寧な敬語が出るよう、いつも心がけておく必要があります。

それから、日本人の日常生活で家庭でも、家の外と接触する機会は、実にたくさんあります。子どもの学校への連絡、教師との面談、身内の職場や上司、同僚あるいはその家族との付き合い・連絡、中元・歳暮の挨拶など年中行事的なもの、日ごろの隣近所との挨拶や買い物時の応対、さらには訪問客やセールスへの応対など、敬語と無縁ではられない毎日を過ごしています。

### 第3節 呼称と敬称

日本人も会話する相手や話題の人物の呼称をどうするかで迷うことがあるくらい難しいそうです。日本語では「呼称」または「称呼」と言います。

まず、相手の呼び方を見てみましょう。

相手の名前や役職を知っていれば、「中田様」「山本課長」「木村先生」などの敬称を付けて呼びます。会話に出てくる人物なら「様」のほかに「中田氏」「橋本女史」もよく使われます。官公庁や組織体などでは「殿」(「東京都教育委員会殿」など。書面ならば「総務部御中」など)を付けたりもします。

「様」「氏」「女史」「殿」は多少改まった呼び方であるとともに、文書・手紙などでの使用が中心となります。日常会話ではもっぱら「さん」や「くん」が用いられます。「さん」は「様」から転じた語で、人名ばかりでなく、職業や会社名、屋号などにも幅広く使われています。

例：お医者さん △△商事さん 越後屋さん

「くん」は、「さん」より敬意が低くなっていますので、自分と対等か目下の相手にしか使えません。また、改まった場では、「様」も必要となってきます。

名前を直接呼ばない言い方に「あなた」がありますが、名前を知らない他人ならともかく、敬意の低減化から、実際には目上の人や上司には使えません。「あなた様」はOKです。

ビジネスシーンでの敬称については、商業関係全般に、顧

客への敬称は「お客様<sup>きやくさま</sup>」となっています。取引先の会社は「御社<sup>おんしゃ</sup>」か「貴社<sup>きしや</sup>」、組織体には「貴職<sup>きしよく</sup>」、役職にある人には「社長様<sup>しやうぢやう</sup>」「専務様<sup>せんむ</sup>」「支店長様<sup>してんぢやう</sup>」(もちろん社内的には役職のみで「様」は一切付けません)などという呼び方になります。実際は、役職はそれ自体が敬称なのですが、現在は慣習<sup>かんしゆうてき</sup>的に「様」「さん」を付けることが多くなっています。

今度は自分の呼び方を見てみましょう。

学生時代の習慣が抜けきらず、「おれ」「自分」「僕」「あたし」などという人がいますが、社会に出たら(あるいは一般の社会人と話す場合には)、「わたし」や「わたくし」を使います。複数では「私たち」「私ども」、会社なら「弊社<sup>へいしや</sup>」「小社<sup>しょうしゃ</sup>」となります。年配の男性の一人称として「小生<sup>しょうせい</sup>」という言い方もありますが、手紙文などで目上の人<sup>けんそん</sup>が謙遜して目下の人に使う言葉ですから、目上の人に対しては使えません。

日本語の敬語ではどこまでが身内かという概念<sup>はあく</sup>の把握が大変重要なのです。

職場内の上下関係はあくまでも内輪<sup>うちわ</sup>のものであり、対外的には身内<sup>みうち</sup>になります。職場から一步出れば、社長であろうと専務であろうと、その役職名<sup>やくしよくめい</sup>に「さん」や「様」を付けることは許されません。身内の概念をきっちりわきまえて話している相手に対して失礼のない呼び方をする必要があります。

詳細は自分の側の呼称・相手側の呼称<sup>はやみひょう</sup>の早見表<sup>さんしやう</sup>を参照してください。

## 自分の側の呼称・相手側の呼称の早見表

関係	自分側	相手側
自分/相手	ぼく・私(わたし/わたくし) 小生・手前ども	あなた・あなた様・貴君 貴兄・尊台・貴殿・貴下
父	父・家父・愚父・拙父・おやじ・老父・(故人の場合) 亡き父・先代	お父様・お父上・父君・ご尊父様・ご賢父様・(故人の場合)ご亡父様・ご先代様 ご先祖様
母	母・家母・拙母・おふくろ 老母・実母・生母・(故人の場合) 亡き母・亡母	お母様・お母上・母君・ご尊母様・ご賢母様・(故人の場合)ご亡婦様・亡き母上様
両親	両親・父母・父と母・老父母・老人たち・年寄りたち	ご両親・ご両親様・お二方様・ご兩人様・ご両所様
祖父母	祖父(母)・隠居・年寄り	ご祖父(母)様・ご老父(母)様・ご隠居様
夫	夫・亭主・主人・宅・あるじ・〇〇(名前)	ご主人様・旦那様・夫君
妻	妻・女房・家内・愚妻	ご令室・令夫人・ご内室 奥方・奥様・奥さん
息子	息子・愚息・せがれ 長(次・末)男・子ども	お子様・ご令息・ご子息 お子様・坊ちゃん
娘	娘・愚娘・拙女 長(次・末)女・子ども	お子様・ご令嬢・ご息女 お嬢様
家族	一同・一統・私ども 皆々・小生方	ご一同様・皆々様・ご家族の皆様
夫(妻)の父	夫(妻)の父・岳父(妻の父のみ)・義父・舅	ご岳父様(妻の父のみ)・ご外舅様・ご義父様・舅御
夫(妻)の母	夫(妻)の母・岳母(妻の母のみ)・義母・姑	ご岳母様(妻の母のみ)・ご外姑様・ご義母様・姑御
兄(姉)	兄(姉)・家兄・愚兄	ご令兄(姉)・兄(姉)君・兄(姉)上様・お兄(姉)様
弟(妹)	弟(妹)・舎弟・小妹・愚弟(妹)	ご令弟(妹)・弟(妹)君・弟(妹)御・お妹様
住居・家庭	拙宅・宅・当方・当家・私宅・小宅	貴邸・貴家・お宅・尊宅 尊家・御家・貴堂・局堂

会社など	小社・弊社・当社(店・行・校・会・課・院・庁)	御社・貴社(店・校・行・会・庁)
仕事	仕事・勤務・商売・当事業・研究	お仕事・ご勤務・ご商売・ご事業・貴業・ご研究・ご勉強
書簡	書面・書状・手紙拙文・寸書・愚翰	書簡・尊簡・ご書面・ご書状 お手紙・御文・おはがき・貴書・貴信・芳信・芳墨
贈物	粗品・粗菓・心ばかりの品 寸志	ご配慮・ご厚志・ご好意の品・美菓
考え	私見・私考・浅慮・愚考・愚見	ご意見・ご高見・ご卓見 ご高説・貴意・貴慮・尊慮 賢慮

## 第4節 敬語の種類

日本語の敬語の分類はいろいろありますが、学校文法で扱う敬語の種類は、一般に次の三種類です。

- 尊敬語
- 謙譲語
- 丁寧語

この三つに共通するのは、つねに聞き手や読み手、話題の人物などを想定して使われるということですが、それらが想定できないものの、内心のつぶやきとして丁寧な言い方をする言葉があります。

一般的に、それを美化語として独立させ、敬語の一種として扱うことにします。

それではまずは美化語から説明していきます。

美化語とは辻村敏樹氏が命名したと言われます。たとえば、誰かが毎日日記を付けているとします。その日記の中では、

誰か読者を想定するともなく、「今日のご飯は～」「お土産は～」と書き記しているはずで、とくに敬意を払おうと意識しなくても、お金・お米・お菓子・お釣り・お茶・お祝い…など、内心の思考やつぶやきの中で、自然と丁寧な言い方をしている言葉がたくさんあります。広い意味では丁寧語に含まれますが、聞き手を意識しないということで、美化語と呼ばれています。

ただ、美化語の使用に関しては、一定の規則性がないことから、かなりの個人差、とりわけ男女の差があります。「お宅のお坊っちゃま、お使いにお出になったの？」などと「お/ご」を多用すると、逆にひんしゆくを買いますので、ある程度の節度が肝心です。

ところが、こんな敬語はダメだと言われます。

「おっしゃられる」「お見えになられます」など二重あるいは三重敬語などの過剰表現は、丁寧すぎてかえって失礼な印象を与える、不適切な表現とされています。ただ、「お召し上がりになる」「お召し上がりください」「お伺いいたします」などは二重敬語ですが、慣習として定着しているため、そのかぎりではないそうです。

では、次の尊敬語、謙譲語、丁寧語について考えましょう。

### (1) 尊敬語

尊敬語とは、自分と直接話している相手や、話題になっている人物の動作を高めることを第一義とし、その人の持ち物や状

態などにまで敬意を表す言葉です。その用法を見ていきましょう。

●相手の動作や存在を直接的に高める用法

例 いらっしゃいませ。(来客への挨拶)

～様でいらっしゃいますね。(電話での対応で、取引先<sup>とりひきさき</sup>の相手の確認)

課長、お昼は何を召し上がります？(社内で上司の動作に対して)

●相手自体を高める用法

例 海山商事の中田課長・中田様・中田さん

●相手の持ち物・所属物を高める用法

例 お荷物・ご家族・御礼<sup>すまい</sup>・お住居<sup>いんかん</sup>・ご印鑑

●相手の状態・性質などを高める用法

例 お寂しい・ご立派・お美しい・ご心配

尊敬語には、ある普通語(動詞)をまったく違う表現にする<sup>てん</sup>転換型(交替形式)と、普通語の前後に言葉をつけて敬意を表す<sup>かんがた こうたいけいしき</sup>付加型<sup>よかが</sup>た(添加形式)の二種類があります。それらについては<sup>いちらんひょう</sup>一覧表を参照してください。

尊敬語は、究極的には話し手が主語を高める表現なので、会社で言えば「社長が～」、学校で言えば「先生が～」など、目上の人<sup>きゅうきょくてき</sup>が主語になる文を想定すれば簡単に作ることができます。

品詞から分類すると、次のようになります。

●名詞を尊敬語にする

- ①「お・ご・貴・御・玉・尊・令・高・芳・賢」などの接頭語を付ける

例 お仕事・お知らせ・ご配慮・ご両親・貴社・貴国・  
御社・御地・玉稿・尊顔・尊父・令嬢・令夫人・  
高名・高配・芳名・芳志・賢兄・賢察など

- ②「氏・様・殿・さん」などの接尾語を付ける

例 中田一郎氏・中田花子様・教育委員会殿・中田さんなど

- ③敬称を示す役職名を付ける

例 金田一先生・中山教授・山本専務・阿部所長・長谷川<sup>はせがわ</sup>理事長など

●動詞を尊敬語にする

- ④尊敬語の動詞(転換型)を使う

(敬語動詞一覧表を参照)

- ⑤「お/ご~になる」「お/ご~なさる」の形を用いる

例 お書きになる・ご出発になる・転勤<sup>てんきん</sup>なさる・(ご)研究なさる

- ⑥「れる」「られる」の尊敬の助動詞を付ける

例 話される・来られる・出張される・起きられる・捨てられる

- ⑦「お/ご~くださる」の形を用いる

例 お迎えくださる・ご検討くださる

- ⑧「お/ご~です」の形を用いる

例 どんな物をお探し<sup>さが</sup>ですか。  
お客様のご到着です。

- ⑨「お/ご~あそばす」の形を用いる



例 お眠<sup>ねむ</sup>りあそばす。(現在ほとんど使わない)

動詞を尊敬表現に直す場合、(転換型の敬語動詞および独特な尊敬表現)

普通語	尊敬語	使用例
いる	いらっしゃる	社長は今北京にいらっしゃる。
	おいでになる	先生は毎年日本においでになる。
する	なさる	あなたはゴルフをなさいますか。
	あそばす	皇太子殿下は昔イギリスにご留学あそばしました
行く	いらっしゃる	先生は休養で温泉にいらっしゃる。
	おいでになる	出張でアメリカへおいでになる予定だそうです。
	お出(で)かけになる	お二人はお出かけになりました。
来る	いらっしゃる	先生は早めに会場にいらっしゃった。
	お越(こ)しになる	中国にお越しになるのをお待ちしております
	見(み)える	山田さんは今日、会社に見えていません。
	お見(み)えになる	そろそろ、お客様がお見えになるころです。
	おいでになる	パリにおいでになったことがありますか。
聞く	お耳に入(はい)る	例の件、もうお耳に入りましたか。
言う	おっしゃる	先生はいつも心を込めておっしゃいます。
	おおせになる	陛下は次のようにおおせになりました。
見る	ご覧(らん)になる	お客様は弊社の紹介ビデオをご覧になりました。
知る	ご存じ	先生はかなり前からご存じでしたよ。
食べる	あがる	スープが冷めないうちにおあがりください。
飲む	召(め)し上(あ)がる	ごゆっくり召し上がってください。